

内子町議会議員研修の報告

愛媛県町村議会議長会が主催する「第1回町議会議員研修会」が7月2日、にぎたつ会館で開かれました。県内各町の議員など約150人が参加し、研修を受けました。



愛媛県町村議長会 林会長のあいさつ

研修に参加して

総務常任委員 中田 厚寛
あつひろ

「災害列島日本、頻発する自然災害に備えて」を愛媛大学防災情報研究センター板屋英治副センター長に聞きました。

1944年の東南海地震は

マグニチュード（以下「M」）7.9、その2年後に発生した南海地震はM8.0と大規模地震でしたが、ゆがみが解放されず、1854年に発生したM8.4の安政東海地震から155年間大地震が発生していないため、相当なゆがみが蓄積されています。ゆがみを解消するほどの大地震はおおむね100～150年の間隔で発生しているとのこと、板屋さんは、いつ地震が起きても不思議でないと講演しました。

関東から九州にかけての広域防災対策を早急に確立していく必要があります。各自治会でも自主防災組織を編成し訓練に取り組んでいます。が、幾度となく訓練を積み重ね、災害時、訓練が生かされることを願うとともに、一人一人

が想定外のことまで考慮した冷静な行動がとれるよう日頃の訓練には、ぜひ参加したいと思いました。

議会研修を終えて

総務常任委員 池田 洋助
ようすけ

「愛しき日本 危機を乗り越えるために」との演題で、政治ジャーナリスト田勢康弘さんの講演があり、ユーモアを交えた話を聞くことができました。

特に訴えていたのは、日本の財政事情に対する野田総理の決断の評価でした。国の借金11年度末で1000兆円。国内総生産（GDP）比で見ると、220%に達している。このため、国際社会に対して日本の税制再建の意志を表した決断の意味は重いということです。

そしていま大事なことは、大衆迎合主義（ポピュリズム）からの脱却であり、国民が嫌

がる消費税増税による財政規律をただす道は、危機を乗り越える道であるということでした。

その他環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）をめぐる論争、原発問題、農業問題などでの「反対派か推進派か」という論議が、メディアも含めて先行していることを指摘。建設的な対応の必要性を唱えていました。

この研修会を通して各議員が時の政権の政治の進め方に振り回されないように、心掛けていくことの大切さを再確認できたと思います。



講演する田勢康弘さん